

# 映画愛の現在

現在を見つめ、未来の「映画愛」のかたちを探る  
長編ドキュメンタリー映画三部作、その第二弾。

「自分たちが選んだ作品を、  
自分たちの手で上映してね。  
会場も公共施設を使おうということを  
そこで決めまして。」

清水増夫（鳥取コミュニティシネマ代表）

2016年の春、大学の職を得て、鳥取で暮らすことになった。夜行バスに乗り込んで、三年間  
過ごした東京を離れる。鳥取市内には、映画館が一館しかなかった。県内で見ても、東中  
西部にそれぞれ一館ずつ、合計三館しかなかった。個人制作の映画を撮り、作品論や作家  
論も書いてきたわたしにとって、これは大問題だった。「日々、浴びるように映画を見なけれ  
ば、優れた作品はつけれない。優れた文章を書くことはできない。」そういう世界で生きてき  
たからだ。「映画とは何か。」映画を愛する人々の決まり文句。けれども今は、別の問いを  
立てる必要があった。映画はどこにあるのか。どこに映画を見に行くのか。私はスクリーンを  
求めて街に出た。この土地で映画を愛し、自らの手で上映機会を作り出す活動を続け  
てきた先輩たちに、人生相談をする旅が始まった。

監督 | 佐々木友輔（ささき・ゆうすけ）



1985年兵庫県生まれ。映像作家、企画者。主な長編映画に2010年『新景カサネガフチ』、2013年『土瀝青 asphalt』、  
2016年『TRAILer』、2019年『コールヒストリー』、グループ展に2015年「第7回恵比寿映像祭」、2016年  
「記述の技術 Art of Description」(ARTZONE)、著作に2015年「三脚とは何だったのか—映画・映像入門書の20世紀」  
、『ビジュアル・コミュニケーション—動画時代の文化批評』所収、南雲堂、2018年「房総ユートピアの諸相—〈半島〉と  
〈郊外〉のあいだで。」、『半島論—文学とアートによる叛乱の地勢学』所収、響文社などがある。

作品情報 | 『映画愛の現在 第1部/壁の向こうで』 Cinephilia Now : Part I - Secrets within walls 103分/ビデオ/2020年

出演: 中村俊一郎、清水増夫、Clara、黒田ミキ、森本良和、長嶺泉子、中島諒人、映画を見る会、赤井あずみ、蛇谷りえ、安部大河、柿原朔太郎 監督・撮影: 佐々木友輔  
編集: 井田通 音楽: 田中文久 主題歌「旅に出る唄」作詞・作曲: 原将人(正孝)、編曲: 田中文久、歌: 大久保藍 製作: 鳥取銀河鉄道祭実行委員会、佐々木友輔  
デザイン: 三宅航太郎(うかふLLC) 協力: 蔵多優美、坂田希亮、佐々木つばさ、蛇谷りえ、高橋裕行、山崎七重 スペシャル・サンクス: 木野彩子、五島朋子、筒井宏樹、野口明生



2020年3月6日[金] 19:00～(終了予定 21:00)

2020年3月8日[日] 14:00～(終了予定 16:00)

両日、  
監督による  
アフタートーク  
あり。

MILKY WAY TRAIN FESTIVAL IN TOTTORI  
鳥取銀河鉄道祭



料金 | 1,500円 会場 | パレットとっとり市民交流ホール(鳥取市弥生町 323-1)

主催: 鳥取銀河鉄道祭実行委員会、鳥取県総合芸術文化祭実行委員会 問い合わせ: qspds996@gmail.com(佐々木)

第17回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2019メイン事業「鳥取銀河鉄道祭」リサーチ事業企画

<http://qspds996.com>